

県民との意見交換実施状況一覧（主な意見）

※しあわせ信州創造プラン「施策の総合的展開」に沿って整理しています

平成29年8月25日現在

会議名	日時	参加者	人数	分野※	主な意見
子育て支援等連絡会議 ＜北アルプス地域振興局＞	H29.8.1	市町村子育て支援 担当課長	12	子育て	<ul style="list-style-type: none"> 心身共に安らぎを感じながら、人と人とのつながりを大切にし、全てのライフステージにおいて助け合いながら暮らす 安定的な人口を確保するため、子育てに優しい地域づくりを大北圏域全体として取り組んでほしい
(一社)伊那青年会議所会員との 意見交換 ＜上伊那地域振興局＞	H29.7.27	会員	20	地域づくり	<ul style="list-style-type: none"> 人づくりが大切。愛郷心を育む活動が大切で、子ども達にこの地域は素晴らしいということを伝える必要がある。子どもだけではなく、大人への教育も合わせて必要 中心市街地の活性化で成功しているところは、行政が本腰を入れている。行政と協働することが必要 外からの移住者は、その地域を好きな人が多いのでその人たちが情報発信を行い、その情報発信を行政もしっかり行ってはどうか
信越総合通信局長との意見交換 ＜企画振興部＞	H29.7.26	局長他	3	産業・雇用 社会基盤 健康・福祉	<ul style="list-style-type: none"> ワイン用ぶどう、ワインの生産管理などの農業分野でのIoT活用を進める 高齢者の交通事故が多いが免許証の返納は生活に支障をきたす。その解決方法の1つが自動運転であるが、そこまでいなくてもライドシェア的なことをやっていくことはあるかと思う 小学校におけるネット環境の整備は進めるべき。パソコン配備や教室内のWi-Fi環境の整備など、市町村によってかなり差があり、プログラミング教育が出来るか心配 IoT実装では「医療・介護・健康」の関心も高い。個人の健診・検診データ、バイタルデータを集め、病気を発症する可能性が高い人に注意喚起ができる
平成29年度長野県食と農業農村 振興審議会上伊那地区部会 ＜上伊那地域振興局＞	H29.7.26	会員	10	産業・雇用	<ul style="list-style-type: none"> 農業者の高齢化が進む中、農業法人の育成と経営全般についての研修・教育機関が必要 安心・安全な食を消費者に届ける。生産されたものの流れが見えるようにすることが大事 安価で売る競争はせず、品質の高い農産物を生産することが大切 2020年の東京大会を機に国際水準のGAPの認証取得を進める必要がある 本物にはストーリーがあるので、それを伝える人材の育成が必要 直売所と学校給食により地消地産率の向上を図る 耕作放棄地を企業に所有してもらい、会社員のように給料制で農業に携われれば農家の所得も上がるのではないか 農家の女性が持っている「力」を発揮する機会と場所が必要
地域のキーパーソンとの懇談 ＜北信地域振興局＞	H29.7.24	地域企業社長	1	産業・雇用 地域づくり	<ul style="list-style-type: none"> 若い人は先が見えないとなかなか定着しない。給与や休暇よりは、5年働いた後に人生設計ができるかどうか重要になっている 温泉街には空き物件が多いので、飲食業等をやりたいプレイヤーさえいれば、比較的開業しやすい状況になっている 小中学生が地元地域を知る機会・体験をもっと増やしてほしい。それにより、地元を愛する心も育まれる

会議名	日時	参加者	人数	分野※	主な意見
長野大学学生との意見交換 ＜県民文化部・企画振興部＞	H29.7.24	鈴木ゼミ学生(3年生)	4	産業・雇用	・ひとり親家庭への金銭的支援や、柔軟な勤務時間の正規雇用を増やす
				健康・福祉	・無料学習塾や奨学金制度のことをもっと知ってもらうことで、不安を和らげたり、協力者が集まったりするのではないかと ・無料学習塾のような居場所づくりを広め、子ども達の様々な学びだけでなく、教える地域の人の社会参加や生きがいにも繋がれば良い ・中高生からもう使わなくなった学習道具を回収し、学校などにストックをして、皆で使えるようにできないか
				教育	・スクールソーシャルワーカーやスクールカウンセラーは、子どもだけではなく、保護者の相談も受けられるようにすればいい
(一財)中部経済連合会との意見交換 ＜南信州地域振興局＞	H29.7.21	連合会職員	6	産業・雇用	・企業・人材誘致は、インフラだけではなく医療や教育などの環境整備も併せて行わなければ成功しない
				社会基盤	・鉄道や道路などのインフラ整備は産業振興に大きなインパクトを与える ・リニア開業等により便利になればスロー現象が起こりうることを想定する必要がある
地域のキーパーソンとの懇談 ＜北信地域振興局＞	H29.7.20	地域企業支配人	1	地域づくり	・自然体験をした小学生の中には、修学旅行は東京より森の家(グリーンツーリズムの拠点施設)に行きたいという子ども達もいて、そうした体験が、地元を離れた人が戻ってくる気持ちにさせるのではないかと思う ・冬場に訪れる人は、雪の多さを楽しんでいる。「すごく積もった雪」が資源になる ・移住者が都会の常識を持ち込んでしまうと田舎では通用しないことがあるので、移住後の生活をおせっかいしてくれる人が必要
電気通信事業者との意見交換 ＜企画振興部＞	H29.7.18	事業者	2	社会基盤	・5G化は現行機器のマイナーチェンジで対応できるよう検討しており、人が多いところからスタートすると思われる。5Gが広まれば光に取って変わる可能性はある ・5G化で実験中の自動運転は、安全性が少なくとも向上する。しかし、田舎での実験はセンターラインのない道路が多く、自動運転には不向き
信州大学学生との意見交換 ＜企画振興部＞	H29.7.18	行政法演習学生(大学3、4年生)	16	産業・雇用	・就職活動時においても学生の金銭的な負担を軽減できる制度をつくる ・長野県で開催の合同就職説明会に都会の学生がネットで参加できるようにする ・育児に励む男性にもスポットライトを当て、「信州イクメン」をメディアを通じて大々的にアピールする ・県内の障がい者の農業分野における就労の場の拡大を目指す ・希望者の継続雇用年数の上限引き上げ(70歳まで)など、元気な高齢者が多い県の特徴を活かした政策を打ち出す ・銀座NAGANOのような情報発信拠点を近畿、東海、九州などの都市圏にもつくる ・観光地をPRする動画を作り、さらに一時的な人気で終わらぬよう新たな観光資源の発掘をする ・集客力のある松本山雅などのプロスポーツクラブと提携し、スタジアムグルメに信州ブランドのグルメを出品すれば、県外の人にも知ってもらえる ・各市町村の観光課の連携を強化し、共同で観光プランを作成する ・長野県の野菜を、給食だけでなくホテルや旅館、居酒屋などでも使ってもらうため調達速度を上げたり、調達料金を下げる
				地域づくり	・進学先、就職先に長野県を選んでもらえるよう高校生や大学生をターゲットにしたイベントを実施する

会議名	日時	参加者	人数	分野※	主な意見
(信州大学学生との意見交換)				健康・福祉	・民間病院では地域医療支援病院の指定を受け、地域密着型の医療を提供し、公立の医療機関は、民間病院では対応しにくい専門的な治療や高度な検査などを行う
				教育	・県立大学の総合大学化により、県内の大学収容率を上げられないか
				その他	・SNSやメディアを活用して全国に発信するなど、多くの人に知ってもらう広報活動が必要
H29年度林務課所管事業に係る局長現地調査における意見交換 ＜北アルプス地域振興局＞	H29.7.14	調査対象者	7	産業・雇用	<ul style="list-style-type: none"> ・松くい虫対策の推進と健全なアカマツの早期伐採による利用を進める ・有害鳥獣駆除や狩猟による捕獲個体の活用方法について、関係する地域がそれぞれ意見交換をし、合意形成を探れる機会の創出 ・地域で育った木を地域で加工し活用するために、単に木製品として販売するのではなく、地域の様子や山の現状、関わっている人、制作過程などの物語が必要 ・林業の観光への活用については、森の情報発信や農家民泊等、他のツールと組み合わせると面白いのではないか ・木材製品の大量製造や大量販売ではなく、シンボルとなる広葉樹や銘木をきちんと残し、森を活かす、将来循環できる形での利用が望ましい ・低コスト林業のためのコンテナ苗の普及および利用を促進する
建設業協会青年部会による次期総合5か年計画策定に向けた提言 ＜建設部＞	H29.7.12	青年部役員 (15支部の代表者)	5	産業・雇用	<ul style="list-style-type: none"> ・遊休・荒廃農地での高付加価値作物の生産 ・高原に観光乗馬、畜産大学、JRA関連施設等を誘致、再開発
				地域づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・古民家を活用して移住者向け体験住宅を整備したり、商店街の空き家を住民が集まる場に ・ジョギングやサイクリング、ヒルクライムやトレイルランのコース整備により、地域の健康増進や観光に活用 ・アウトレットモールや企業、大学、国省庁などの誘致
				環境	・きのこの廃培地をバイオマス原料とした発電事業及び廃熱利用
				安全	・災害時の避難場所に太陽光パネル付きの外灯を設置
				社会基盤	<ul style="list-style-type: none"> ・生涯学習施設周辺での緑地公園整備 ・自転車専用レーン、シニアカー専用レーンの整備や、電線地中化、モノレールや路面電車の設置など ・下水熱等の温度差熱利用で歩道の融雪設備を整備 ・信州まつもと空港を国内外各地へのハブ空港にする ・外国人向け表記の標識、バックパッカー向けのホテル建設などを進める
地域のキーパーソンとの懇談 ＜北信地域振興局＞	H29.7.12	地域団体代表	1	地域づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・地域全体にお金落ち、協力して集落を守っていこうという気になるような、持続できる仕組みで活動することが必要 ・移住者の中には、サラリーマン生活に疲れた人が多く、悩みを持っている人もいる。自然環境の中で滞在(生活)し、話を聞いてあげること、元気を取り戻しつつある人もいる。地域の人のかさや繋がりを求めている

会議名	日時	参加者	人数	分野※	主な意見
知事とのタウンミーティング(南信) ＜企画振興部＞	H29.7.11	一般県民	20	産業・雇用 地域づくり	<ul style="list-style-type: none"> 再生可能エネルギーは地域の人に利益が降りていない。エネルギーの地産地消が出来れば 子どもや若者、高齢者など色々な人が自分の役割を感じられる居場所が地域の中に小さく沢山あると良い アイデアが実現できないと考えるのをやめてしまうので、若者のアイデアが実現につながるようなプラットフォームがあれば良い 地域を熟知し、適切などころにつなぐことが出来るようなコーディネーター(プロデューサー)を置いてはどうか 子育て世代が幸せになるために、会社の考えを変える、もしくは上司を変える
局長と語ろう！第2回タウンミーティング ＜北信地域振興局＞	H29.7.11	若者地域づくり関係者	13	地域づくり 社会基盤 教育	<ul style="list-style-type: none"> 地元の人は地域の良さに気づいていないことがある。良さを知ってもらえる機会がない 地域のしがらみが面倒くさい。小さい村だと特に周りの目が気になる 自転車をJR列車に乗せ、サイクルトレインとして売出せば話題になるのではないかな 子どものうちから多くの自然や環境に触れる体験が必要。地域学習や職場体験がもっと増えると思う
地域のキーパーソンとの懇談 ＜北信地域振興局＞	H29.7.11	地域企業社長	1	産業・雇用 その他	<ul style="list-style-type: none"> (観光業)一般客が楽しめるための投資、インバウンド対策、日本の価値を高める戦略を念頭に取っている とにかく人手不足であるため、人材派遣に関する良い仕組みが必要。特に閑散期となる冬場の農業従事者や建設業者との企業間連携が出来ると良い。地元高校生の就業体験やインターシップも大歓迎 行政にはバックアップを期待。地域内のバランスを考えるよりも、集中して力を入れる箇所があっても良い(選択と集中)。それで成功例を見ることが出来る
南信州レジ袋削減推進協議会 総会 ＜環境部、南信州地域振興局＞	H29.7.5	協議会構成員	23	環境	<ul style="list-style-type: none"> 子どもたちへの環境保全に向けた意識の醸成や、身近な生活ルールの順守 地球温暖化対策等による循環型社会の構築 再生可能エネルギーの活用と景観保護の両立 野生鳥獣による被害の低減
地域振興局長との タウンミーティング(飯田市) ＜南信州地域振興局＞	H29.7.5	地域づくり団体	9	産業・雇用 地域づくり 教育 子育て その他	<ul style="list-style-type: none"> 「人」でしか出来ないホスピタリティ的なところは、AIで代わる事が出来ないもので、唯一磨いていけば残る部分ではないか 中心市街地の空き店舗の教育や福祉、観光、文化といった分野でのオフィス化 心豊かな文化と共生できる地域づくり 県の発信力で、様々な地域の特色を全国に広め、「訪れたい」「住みたい」「子どもを育てたい」等のイメージを高めてほしい リニアが開通すれば首都圏の大学にも通えるようになるので、大学に行くために故郷を離れる人口流出を止め、そのまま南信州で生活できる状態を作り出す 女性が仕事と育児をうまく両立できるような仕組みづくりが子ども達の精神的な安定や活力につながるのではないかな 次期計画は、地域の皆さんの地域に対する「誇り」を喚起するような地域計画を作ってほしい
北信地区社会教育委員連絡協議会 ＜長野地域振興局＞	H29.7.4	委員	16	教育	<ul style="list-style-type: none"> 県都長野市を中心とした信州型コミュニティスクールの推進や、お手本となるような信州型モデルづくり

会議名	日時	参加者	人数	分野※	主な意見
若者活動団体との意見交換 ＜北アルプス地域振興局＞	H29.6.30	若者	12	産業・雇用	・地元に戻ってこない理由としてよく「仕事がない」というが、仕事のやり方を工夫すれば食べていける。本当に住みたい地域であれば、皆戻ってくるのではないか
				地域づくり	・小中学校、高校の繋がりがあり、社会に出ても地域に繋がりがあある大人がいれば自然と人が集まってくる。地域の中でこういう人を見つけるのが重要 ・昔は何をやるにもコミュニケーションが必要だったが、今はコミュニケーション自体が目的になってきている。この地域では「コミュニケーションがとれて楽しそう」というイメージが付けば価値がでてくるのではないか ・自分たちの地域を知るといいう仕掛けを通し、「シビック・プライド」を高めることで、地域の課題も見えてくるし、当事者意識や危機感を持った人も増えてくるのではないか
				その他	・行政で全てやろうとしないことが重要。仕事の割り振りを考える必要があるのではないか
局長と語ろう！ 第1回タウンミーティング ＜北信地域振興局＞	H29.6.30	若者地域づくり関係者	20	産業・雇用	・一度都会に出た後、地元に戻ってくるには、魅力ある就職先があるかどうかによる ・地域の特産(キノコやフルーツ)などの強みを観光に繋げる取組が必要 ・人材不足が深刻。農業も仕事内容に興味を持ってもらえるようPRが必要
				地域づくり	・若い人たちが県外(国外)に出て活躍し、地域の魅力を発信してもらいたい。そのために、地域の歴史や文化、美しい自然環境、豊かな農産物を実際に経験(体験)として知る必要がある
				社会基盤	・高校生が使いやすい公共交通にしてほしい
				子育て	・子育てをするには、田舎の方が都会に比べメリットが多いと思う ・子ども達と屋内で遊べる施設が少ない
県食と農業農村振興計画審議会 南信州地区部会 ＜南信州地域振興局＞	H29.6.28	部会員	10	産業・雇用	・担い手不足が深刻で悲観的な意見が多いので、担い手育成対策に注力してほしい ・「定年帰農」に着目し、年金支給までの間に農業で生計を立てるための支援策を考えては ・個人経営主体の地域であることを踏まえ、子弟への継承を促進するための支援策が必要 ・農地中間管理機構と連携した農地をリリーフ継承する仕組みづくりが必要
大学・地域連携事業補助金の後継 事業等に係る懇談 ＜南信州地域振興局＞	H29.6.28	飯田女子短期大学 教授、事務部長	4	地域づくり	・学生にとって信州で学ぶ、信州で働くということに価値を見出せるようになると良い
				教育	・京都や金沢のような「信州は学びの場」というイメージの定着
				その他	・県による広域的な情報発信の強化
「木曾子育てまちづくりの会」の会 員からの意見聞き取り ＜木曾地域振興局＞	H29.6.28	会員(子育て中の母親)	6	産業・雇用	・働く場所が増えて、子供たちが県外に出なくても地元で学び、地元で仕事に就けるようになってほしい ・自然農法(無農薬、化学肥料不使用)がもっと盛んになるとよい。おいしくて安心して食べられる木曾の食材(野菜や米)で給食も(発酵食品、和食) ・企業等が子育て世代を応援してほしい(父母の育休取得、残業抑制、母親の再就職等) ・短時間でも子連れで働ける場があるとよい(飲食店、事務、老人福祉など)。子供がいることでお客さんも笑顔にできるのでは

会議名	日時	参加者	人数	分野※	主な意見
「木曾子育てまちづくりの会」の会員からの意見聞き取り				地域づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・まちづくりに女性・学生・若者がもっと参加しやすくなるとよい(住民自治が活発化、議会に若者が増える等) ・子育て中の母親がお互い空いた時間に助け合う「ちょっとだけお手伝い制度(50分単位)」があるとよい ・地域が若い世代を応援し、Iターン者を受け入れるとともに、若い移住者の場合は親も一緒に移住してもらおうなど ・若者向け(または親子で一緒に住める)住まいの確保が必要(空き家活用、アパート等)。空き家活用には地主の協力や情報提供も必要
				環境	<ul style="list-style-type: none"> ・ゴミが少ない、汚さない暮らし方が必要(量り売りなどゴミを出さない売り方、お直し屋、公営住宅に共有コンポスト等)。自治体のゴミ処理費用も節減可(cf.徳島県上勝町)
				健康・福祉	<ul style="list-style-type: none"> ・認知症になってもこれまでと同じように生活できるよう、「メニューを間違えるレストラン」(認知症の人々がスタッフ。「注文を間違える料理店」ともいう)があるとよい
				教育	<ul style="list-style-type: none"> ・都会と学習レベルの差がない教育が地方でも受けられるようになるとよい。また、ゆくゆくは1クラス20人学級になればよい
				子育て	<ul style="list-style-type: none"> ・地域に子供がたくさんいて、近所に遊び相手がいる環境が必要 ・子供の貧困をゼロに。たとえ貧しくても、地域の人々の支えで笑顔で暮らせるように
				その他	<ul style="list-style-type: none"> ・思いを伝えやすい行政に。施策はわかりやすい言葉で(カタカナ語は難しい)
地域振興局長との タウンミーティング(北部ブロック) ＜南信州地域振興局＞	H29.6.27	地域づくり団体	8	産業・雇用	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の産業の強みを市町村の垣根を越えて発揮し、政策として取り組める体制づくり
				地域づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・年を重ねても一人でも安心して暮らすことが出来る社会の実現 ・まだ形になっていない若い人の思いを後押しすることが必要 ・大きな何かに頼るのではなく、自分たちが「こういう風になりたい」というものを積み上げていけば良い
				社会基盤	<ul style="list-style-type: none"> ・大型商業施設や広告看板で景観が損なわれないよう、今あるモノに魅力を感じ景観と共に守っていききたい
				健康・福祉	<ul style="list-style-type: none"> ・認知症の人が地域の中で安心して暮らせるように、周囲の深い理解が必要
				教育	<ul style="list-style-type: none"> ・ICT活用で都市並みの教育が受けられる環境の実現、各種学校誘致による児童生徒の増加
上伊那地域自然エネルギー普及協議会総会 ＜上伊那地域振興局＞	H29.6.22	会員	10	産業・雇用	<ul style="list-style-type: none"> ・地元の子どもが地元就職できる場所がある地域になってほしい ・少子化が進み、就職も進学先ではなく地元志向が強くなっているため、仕事の間を作るのが重要 ・農業、林業、工業が連携し、地元ならではの商品開発や6次産業化が必要 ・滞在型観光をコーディネートするには、地元のリーダー、外部のプロとそれをつなぐ人が必要であり、その役割を行政が担うことが必要 ・森林からは綺麗な水やエネルギー源などを得ることができ、安心・安全につながる。森林だけではなく、関連する事項を含めて取り組むことが必要
第1回北信地区総合型地域スポーツクラブ連絡協議会総会 ＜長野地域振興局＞	H29.6.22	会員	2	健康・福祉	<ul style="list-style-type: none"> ・公民館、育成会、PTAの県レベルの連合会がそれぞれ活動を検証する機会を設けたり、スポーツ振興の県のスタンスを情報発信するなど、スポーツを軸とした健康寿命の延伸

会議名	日時	参加者	人数	分野※	主な意見
地域のキーパーソンとの懇談 ＜北信地域振興局＞	H29.6.22	地域企業役員	1	産業・雇用	<ul style="list-style-type: none"> ・観光振興として、都会に住んでいる退職者を念頭に、川下りやトレッキングなど一日楽しく過ごせる参加型イベント(旅行)を進める必要がある ・昨秋に飯山線で運行されたSLを定期的に走らせたい。並行している千曲川の景観と結びつけると面白いし、「一点豪華主義」の事業として実施してみてもどうか ・(株)星野リゾートの星野社長や、(株)玉村本店の佐藤さんからマーケティングの手法や経営感覚を学んでみることも必要。地方自治にも参考になるだろうし、発想を変えるヒントになる ・製造業の振興については、地域に技術の集約が行われていないのが現状。今後はICT関連の業種や食品業(発酵食品・醸造)が面白いのではないかと ・観光客を増やすためには、地域の中で魅力ある「食」が必要
				地域づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・WAKUWAKUやまのうちにより、雰囲気が変わった。「よそもの、わかもの、バカモノ」の活用は重要
飯田信用金庫との意見交換 ＜南信州地域振興局＞	H29.6.22	職員	5	地域づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・リニア開業を見据えた地域づくりの旗振り役が必要
				社会基盤	<ul style="list-style-type: none"> ・コンベンション施設や文化施設はリニアから見える場所に設置できれば効果が高い
				教育	<ul style="list-style-type: none"> ・域外の子どもへの仕送りによる資本流出は莫大で、リニアの通学定期へ補助してもペイできる
地域振興局長との タウンミーティング(南部ブロック) ＜南信州地域振興局＞	H29.6.21	地域づくり団体	7	産業・雇用	<ul style="list-style-type: none"> ・地域ブランディングを推進し、メディアやSNSへ発信し、商品展開をすることでブランド力を高める ・農産物、乳製品、果実酒等、様々な資源を組み合わせ、観光コンテンツ化し、交流人口の拡大を目指す ・地域内の自給率の高い暮らしぶりを継承し、真に豊かな暮らしを誇りに生き活きと暮らせる
				地域づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・国重要無形民俗文化財に指定されている伝統芸能をはじめ、多くの伝統行事と伝統食が維持されている ・町、県には地域活動を支える施策を紹介する窓口の一本化など、情報発信の取組を強化してほしい
				社会基盤	<ul style="list-style-type: none"> ・IT教育が推進するため、情報通信会社の誘致による通信整備の促進が必要
				教育	<ul style="list-style-type: none"> ・世のため人のために行動する人材を輩出し続ける
				子育て	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもを安心して産める環境づくりが必要
安曇養護学校校長との意見 交換 ＜北アルプス地域振興局＞	H29.6.21	校長、事務長	5	教育	<ul style="list-style-type: none"> ・児童、生徒が快適な環境の中で学校生活を送ることが出来れば良い ・知的障がいのある子ども達が、充実した現場実習を積んで、本人の希望により一般就労の機会が得られることが必要
清泉女学院大学学生との意見 交換 ＜企画振興部＞	H29.6.20	学生 (川北研究室)	3	地域づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・都会で感じるようなワクワク感を長野でも感じられて、県外の友達から羨ましがられるようになってほしい ・若者目線からアイデアや流行を創造し、ゆくゆくは発信基地になれば良い ・県民のコミュニケーション能力向上 ・若者がまちづくりなどに“参画”する場がほしいし、若者が意見を聞いてもらえるという経験が、自信にもなるし、郷土への愛着にもつながる
				社会基盤	<ul style="list-style-type: none"> ・街の外観を統一させるなど、共通した意図のもとで整備してほしい

会議名	日時	参加者	人数	分野※	主な意見
自然エネルギー佐久地域協議会 運営会議 ＜環境部・佐久地域振興局＞	H29.6.20	会員	19	環境	<ul style="list-style-type: none"> ・サケが回帰する河川環境、山枯れのない森林の実現 ・高まる地球環境リスクに対する環境危機意識を県民が共有 ・エネルギーの地産地消、脱化石燃料化に向けたライフサイクル、社会構造の転換 ・中小企業を活性化するためには、省エネに対する設備投資を手厚くするとともに、産業構造を転換することが不可欠
中野西高等学校生徒と環境部長 の懇談会 ＜環境部・北信地域振興局＞	H29.6.19	学生及び教員	14	環境	<ul style="list-style-type: none"> ・今の大人たちがやっているボランティア活動が若者に繋がっていくために、人を集め、そこからアイデアを出し合って一歩踏み出す仕組みづくり ・自然が大事と思える、自然に触れ合える機会づくり
PTA指導者研修会 ＜長野地域振興局＞	H29.6.17	PTA役員	23	教育	<ul style="list-style-type: none"> ・子ども達が細やかな分野までの専門学習を受けられる教育環境づくり
「木曾ものづくりの会」の会員企業 からの意見聴き取り ＜木曾地域振興局＞	H29.6.14	会員企業の役員	8	産業・雇用	<ul style="list-style-type: none"> ・若い人たちが外に出て行ってしまうのは働く場所がないから。企業誘致等が必要 ・労働人口の減少で地域の企業は縮小していかざるを得ない。少ない人口の中でうまくやっていくか、あるいは外国人を入れることも必要 ・働き手がない。空き家は多いが県外から来ても住むところがない。空き家活用を ・外国人労働者もいるがやめていく人も多く入れ替えが激しい。他地域の取組事例を知りたい ・若者が外に出て行っても1/3くらい戻って来れば若い労働力となって活気が出るのでは。地元の小中学生に地元の会社を見て知ってもらう取組が重要
				地域づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・同級生はみな外に出てしまっているが、住むところ、遊ぶところがないというのが理由。地元にはもっと楽しいところがあるという発信が必要 ・Iターン者に対するバックアップが足りない。Iターン者同士のコミュニケーションも足りない。人を呼び寄せる施策を(住む場所と働く場所の確保) ・人口減少の流れは止められないので、それを受け入れて地域のあり方を考えるべき
地域振興局長との タウンミーティング(西部ブロック) ＜南信州地域振興局＞	H29.6.13	地域づくり団体	7	地域づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・異世代、障がい者の枠を超え交流することで支え合う村づくり ・自分らしく生きられる多様な生き方が認められる地域 ・婚活を成功させるため、「最低賃金の根本的引き上げ」「労働環境の改善」「教育費負担の大幅軽減」が必要 ・里山と共に生きていけるライフスタイルの確立に向けた行政的配慮が必要
				教育	<ul style="list-style-type: none"> ・公民館活動の充実
				その他	<ul style="list-style-type: none"> ・県域を越えた広域的な取組の必要性
佐久大学学生との意見交換 ＜健康福祉部・企画振興部＞	H29.6.12	学生 (看護学部4年)	24	地域づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者の地域参加や外出意欲の向上 ・生きがいづくりのために、一人暮らしの高齢者宅に学生が下宿 ・男性(高齢者)の一人暮らしへの介入 ・高齢者と若者などのつながりが広がるような場づくり
				産業・雇用	<ul style="list-style-type: none"> ・県経済を支える製造業者のイメージ回復キャンペーンの実施 ・転職しやすい環境を作ることで、我慢してその会社で働き続ける必要をなくし、ストレスを軽減 ・他の企業の良いところを参考にし合うための企業間交流 ・職場での上下関係や横のつながり強化による働きやすい環境 ・産業保健師主体で労働者のオーバーワークを改善できるのではないか

会議名	日時	参加者	人数	分野※	主な意見
(佐久大学学生との意見交換)				健康・福祉	<ul style="list-style-type: none"> ・保育料と医療費の負担軽減事業を若い世代に周知 ・障がいを抱えた病児も受け入れ可能な施設、保育所の設置 ・病院・薬局の窓口負担無料化 ・若い世代から健康行動に関心を持ち、実際に行動に移し、自分たちの健康は自分たちで守ることができる長野県にするため、ACEアプリの作成、ACEをテーマにしたCM大賞の開催 ・仕事ばかりに目が行くのではなく、経営者も健康経営を意識し、健康的に仕事を続けることができるようにする ・運動だけではなく、食事にも介入してもらえる場づくり ・運動健康指導士の増加
				教育	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもに関心を持ち、産みたいと思えるように学校で教育 ・返済不要の奨学金の充実(県内への就職が条件) ・高校無償化、義務教育化により、貧困の連鎖を断ち切る
				子育て	<ul style="list-style-type: none"> ・サービス業など土日が休みではない方も利用できるよう児童館を開放(ボランティアや高齢者の新たな雇用先) ・児童センター、学童保育の周知や地域格差の是正 ・子育て世代の税金を下げる
第2回長野県食と農業農村審議会 ＜農政部＞	H29.6.12	審議会委員	9	産業・雇用	<ul style="list-style-type: none"> ・「おいしい信州ふード(風土)」の利用とマーケットニーズの考慮により、産地としてどのような品目を取り入れるか ・寒さと暑さの拡大する中、この気候に合った技術開発や機能性食品向けの品種育成を行うべき ・人材確保の観点から、農業によって収入を得られることをアピールし、定年帰農者やIターンやUターンを増やすことが必要 ・農産物等の海外販売・PRなどは方法や金銭的にも難しい。まずは、海外から来た人たちに食の体験をしてもらってはどうか
地域振興局長との意見交換会 ＜上伊那地域振興局＞	H29.6.7 ～6.20	地域振興局職員 (県税事務所職員)	90	地域づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・移住・定住に必要な環境、働く場所、教育等を一体のものとして整備していくことが重要 ・移住・定住もターゲットを絞って考えなくてはならない。定年になって帰ってくる人が帰りやすい地域づくりも大事 ・地域づくりもコンテンツからコンセプトが重要。地域に住む人が共感できるコンセプトを共有することが大事 ・ただの田舎では他との差別化が難しいので、コンセプトがある田舎づくりを進めたらどうか(無人の自動運転バスが24時間走る、薪ストーブの薪をドローンが運んでくるICT技術が進んでいるなど) ・人口減少の中で、コンパクトシティも1つの考えだが、エリアをどうするか、移動する人の気持ちはどうかといったことを大事にしながら進めることが重要
(仮称)信州みちビジョンの策定に係る意見交換会 ＜建設部、飯田建設事務所＞	H29.6.9	道路アダプト関係者、運輸事業者、病院関係者、インフラ事業者など	11	社会基盤	<ul style="list-style-type: none"> ・景観、災害防止等の観点からの無電柱化の推進 ・観光客に分かりやすい案内板の設置 ・観光振興の観点から、歩く人の安全を阻害しない道路(スピードが出ないなど)が必要 ・自動運転の実現とそれを可能にする道路整備 ・救急搬送の時間短縮につながる道路整備

会議名	日時	参加者	人数	分野※	主な意見
食旅☆NAGANO、(一社)縁家との意見交換 ＜北アルプス地域振興局＞	H29.6.9	食旅☆NAGANO、(一社)縁家	10	産業・雇用	<ul style="list-style-type: none"> 訪れる方の国によってニーズが異なり、また経済力によっても様々。どこをターゲットにするか難しい 日本文化体験だけではなく、人と人との交流が満足度につながっているのではないかと。外国人観光客を心を込めておもてなしをするという姿勢が大切
				社会基盤	<ul style="list-style-type: none"> SNSに写真をすぐにアップしたい外国人観光客が多く、Wi-Fiの整備は必要
地域おこし協力隊意見交換会 ＜北信地域振興局＞	H29.6.9	地域おこし協力隊員など	25	産業・雇用	<ul style="list-style-type: none"> 東京オリンピックを契機に「食」の安全がクローズアップされると思われる。有機農法と観光を結び付けた農業体験等は都市部の人やインバウンドにも活かせるのではないかと 都心にいなくてもできる仕事があることを広く認識してもらえようPRする必要がある
				地域づくり	<ul style="list-style-type: none"> 若者が地域の振興のための価値観を共有できる語り合いの場(交流する場)を増やす
				教育	<ul style="list-style-type: none"> 環境の良いところで子育てや教育をさせたいと考える人は多い。例えば、小学校高学年くらいから全寮制の学校があり、しっかり学習するところがあればいい
管内市町村・土地改良区農業農村整備事業担当者会議 ＜農政部＞	H29.6.8	管内農業農村整備事業市町村・土地改良区	60	産業・雇用	<ul style="list-style-type: none"> 標高を活かしたリレー栽培により市場が品薄な時期に出荷が可能となるような、農地を創出(区画整理)する 農地区画は一定の規模に留めた区画整理を行い、農道の幅員拡幅による安全面や、用排水施設の自動化を推進する
次期食と農業農村振興計画の策定に向けた意見交換 ＜農政部・松本地域振興局＞	H29.6.8	市町村、土地改良区	35	産業・雇用	<ul style="list-style-type: none"> 豊かな農村風景と利便性の高い都市化の両立のため、海外も視野に入れた農業者によるネット販売等の支援や、外国人観光客向けの農業体験を実施 質の高い農業の継続・発展のため、後継者不足の解消や、農業経営体の法人化支援、農地中間管理機構の有効活用を実施 地域コミュニティ機能の活性化のため、遊休農地を地域住民が自由に耕作できる村民農村化
電気通信事業者との意見交換 ＜企画振興部＞	H29.6.8	事業者	4	社会基盤	<ul style="list-style-type: none"> 様々なサービスが行政単位になっているが、実際の利用形態としては、行政単位にならない場合もあることから非効率なものとなっている
NPO法人キッズウィルとの意見交換 ＜北アルプス地域振興局＞	H29.6.8	NPO法人キッズウィル	8	子育て	<ul style="list-style-type: none"> 親の養育能力の低下、精神疾患を持った親の増加、片親の増加による家庭環境の悪化を感じる。特に父子環境(父親が働いていないなど)の子どもが心配 経済的な格差が広がり、子どもの置かれている環境が厳しくなっていることは実感している
ウグイ種苗についての打ち合わせ会議 ＜農政部＞	H29.6.7	佐久養殖漁協組合長、職員	2	産業・雇用	<ul style="list-style-type: none"> 千曲川などの水が清浄な状態に保たれ、養魚用水として利用でき、おいしい魚が生産できればいい 養魚場の代替わりが進み、後継者によって持続的経営ができていくことが理想
(一社)駒ヶ根青年会議所との意見交換 ＜上伊那地域振興局＞	H29.6.7	会員	11	地域づくり	<ul style="list-style-type: none"> 若い人が暮らしていて「楽しいな」と思える地域であってほしい 例えばカジノを整備するなど、県が思いつかないような、県ではできないような取組も必要 「郷土愛を育む取組」が大切で、移住定住を重視するよりは、この地域で生まれ育った人材が最後は帰ってくる仕組みづくりが必要
				社会基盤	<ul style="list-style-type: none"> リニア中央新幹線開業を契機に、二次交通が整備されてほしい。そのためには、行政はインフラ整備に特化、その他は民間でやるくらいの割り切りも必要
				その他	<ul style="list-style-type: none"> 計画に記載されていることを、誰が実行するのか、どの機関が連携して進めるのか明確にしておくことが必要

会議名	日時	参加者	人数	分野※	主な意見
百馬力との意見交換 ＜北アルプス地域振興局＞	H29.6.7	百馬力	3	産業・雇用	<ul style="list-style-type: none"> ・白馬村は観光業が季節ごと安定しないので、観光業が暇なときに他の仕事ができるようになれば良い。例えばITを活用して好きな仕事をするには適した地域ではないか ・デザイナーは欲しい人材。Webによる発信にしても、見せ方には工夫する必要があるので、デザイナーと一緒に情報が発信できれば、魅力の伝え方も変わってくると思う
				地域づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・若者の定住促進を考える時に高校生を巻き込むのは良い。地域課題を設定し、それに対する提案を高校生からプレゼンテーション形式で発表してもらってコンテストを開催してみても面白い
農業農村整備事業関係者との 意見交換 ＜農政部＞	H29.6.6	管内農業農村整備 事業市町村・土地改 良区	23	産業・雇用	<ul style="list-style-type: none"> ・土地改良施設や歴史的な疎水も、水路機能に加え付加価値を活かす ・水利施設の維持管理は、農家や非農家を問わず、活動組織の所在する地域の人たちのマンパワーと財政的支援が必要
千曲川営水道工事業協同組合 意見交換会 ＜企業局＞	H29.6.6	協同組合員	20	地域づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・病院、学校等を整備し、首都圏と比較しても負けないようにして、長野県を選んでもらう ・よそ者、若者の意見を聞く。地元のしがらみのある人ではない発想が期待できる
				社会基盤	<ul style="list-style-type: none"> ・長野市は朝の渋滞がひどく、多くの人が時間を無駄にしているので、渋滞をなくす
フナ産卵床造成・シナノユキマス放 流についての打ち合わせ会議 ＜農政部＞	H29.6.5	南佐久南部漁業協 同組合長、職員	2	社会基盤	<ul style="list-style-type: none"> ・人々が川に親しみ、子供が遊び、釣り人がたくさん訪れる川やコンクリートで固められていない自然石の川が残っていれば良い
これからの長野県教育を考える有 識者懇談会(第4回) ＜教育委員会＞	H29.6.5	懇談会委員	15	教育	<ul style="list-style-type: none"> ・「変化適合力」と「変化創造力」が交わっているところが子どもが育つ土壌であり、ここがしっかりしていないとどんな変化にも適用できないし、想像力も働かないのではないか ・70歳現役社会のため、45～50歳くらいが技術的な職業訓練を受けられるところの充実 ・ICT活用で不登校者の学びの担保が出来ないか ・多様性を受け入れるという意味で、自分と異なる子どもと一緒に学ぶ体験は、子どもも親も新たな価値を創造でき、非常に重要だと思う ・子どもたちの学びの環境を整えて選択肢を増やすことが一番基本的な方法。長野県の子どもたちが全国平均から見てハンデにならない施策を盛り込んで欲しい ・中学校、高校の地域での企業連携も含めたキャリア教育の充実が必要
市町村保険医療福祉担当課長会 議 ＜北アルプス地域振興局＞	H29.6.5	市町村、広域連合 の福祉担当課長	8	健康・福祉	<ul style="list-style-type: none"> ・病気になるらない、かかっても悪化させないため、地域のかかりつけ医を充実 ・緊急医療の充実のため、緊急対応が可能な医師の確保や、医療機関の体制整備、生活道路の整備、除雪体制の充実が必要 ・障がい者が経済的にも日常生活で家族の支援に頼らず生活でき、家族も将来に不安を感じないことが必要
自然エネルギー上小ネットとの 意見交換 ＜環境部・上田地域振興局＞	H29.6.3	会員	20	環境	<ul style="list-style-type: none"> ・自転車や公共交通が利用しやすく、高断熱の住宅づくりなど、省エネルギー化が進むまちづくりを住民と自治体が一緒になって取り組む ・森林県であることを活かし、森林資源をエネルギー源として活用することが重要で、こうしたエネルギーを熱利用してはどうか
電気通信事業者との意見交換 ＜企画振興部＞	H29.6.2	事業者	6	産業・雇用	<ul style="list-style-type: none"> ・今後業務の半分程度がAIにとって代わる可能性がある。AIはデータがあって初めて動くもの。行政経営の仕方としても、AIをどれだけ活用できるのか、計画しておく必要がある ・情報の価値を理解することが将来の長野県の形成には大事なことではないか ・海外市場のマーケティング、海外来訪者の購買データを収集し、ネットでも売れる商品づくりに活用する
				社会基盤	<ul style="list-style-type: none"> ・人口が減少している中で、どこまで情報インフラ整備を続けるのか、山間まで整備するのか、行政も民間の経営的判断をすべきではないか

会議名	日時	参加者	人数	分野※	主な意見
市町村・土地改良区 農業農村整備事業担当者会議 ＜農政部・北アルプス地域振興局＞	H29.6.1	市町村・土地改良区の担当者	30	産業・雇用	<ul style="list-style-type: none"> ・輸入野菜に頼らず、安心して国内産野菜を食べたい ・気象の大きな変動、自然災害等にしなやかに対応できる都市・農村社会
				地域づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・美しい田園風景(耕作された農地・管理された水路等)が維持されていて欲しい
(仮称)信州みちビジョンの策定に係る意見交換会 ＜建設部、飯田建設事務所＞	H29.6.1	管内市町村、警察署、広域消防本部	18	社会基盤	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢化社会を踏まえ、「自動運転レーン」等を整備し、自動運転で通勤・通院等ができる環境整備が出来れば良い ・雨量規制等で孤立しない道路整備など、災害に強い道路づくりが必要 ・人口減少対策、産業振興につながる道路整備
景気動向調査(H29.4月分)に合わせたアンケート調査 ＜産業労働部＞	H29.4月下旬～5月上旬	県内製造業者	67	産業・雇用	<ul style="list-style-type: none"> ・産学官連携、産業間連携、6次産業化など企業の成長を促し若い世代が働きやすい環境整備が未来へつながる ・ゆっくりとものづくりを行いたい人や学生を受け入れられる仕組みづくり ・バランスが取れた産業構造の形成(医療・航空・農業・観光等の資源の1つに特化しない) ・駅前の賑わい回復による個人消費の向上 ・知識集約型の産業の育成 ・地方企業を育てるための優遇税制の拡充 ・国内の優れた技術力・開発力を活かし、付加価値が高く、他ではできない差別化した国内産の製品開発を実施し残していく ・大手技術者の招へいによる中小企業の技術力向上 ・伝統工芸分野における異業種との積極的なコラボ機会の増加支援などの仕事拡大 ・製造業への就職希望者が減少しているため、製造業の良さをもっとアピールできないか ・外国人労働者を増加させる制度の創設 ・学生がUターンし働ける魅力ある雇用環境の整備 ・小さいが信州に行けば何でも揃う技術企業の集積(かつての大田区のように) ・リニア開通や各空港との利便性向上により医療産業、AI等ソフト産業やサテライトオフィス、大学等教育機関などを誘致 ・長野県の良い自然エネルギーを活用した農業、6次産業化 ・山、川、自然を活かし、地産地消を進め、長野県にしかできない観光地と産業を形成 ・若者が魅力を感じる会社づくり、働く場の提供
				地域づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・外国人も住みやすいまちづくり
				社会基盤	<ul style="list-style-type: none"> ・輸送トラックが通れ道路の整備、輸送費を安く ・Wi-Fiがどこでも無料で使える環境やフェースタイムなど、情報網の整備
				消費生活審議会 ＜県民文化部＞	H29.5.31
				環境	<ul style="list-style-type: none"> ・自然が多く残っている
				社会基盤	<ul style="list-style-type: none"> ・都会と適度な距離を保ちながら、アクセスが良い社会
				子育て	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもが生き活きと学校、地域で生活出来れば良い
事業活動温暖化対策計画書制度説明会＜環境部＞	H29.5.29 H29.5.31	事業担当者	80	環境	<ul style="list-style-type: none"> ・今後、温暖化の影響が懸念されるので、気候変動対策は重要。EA21簡易版など、家庭・企業でも取り組める仕組みが必要

会議名	日時	参加者	人数	分野※	主な意見
豊かな環境づくり松本地域会議会員との意見交換会 ＜環境部・松本地域振興局＞	H29.5.31	会員	37	産業・雇用	・荒廃農地の再生のために、荒廃農地を買い上げて耕作する人への助成制度が必要
				環境	・山間地の自然環境を、その地域の住民と守っていけるような施策が必要 ・環境に携わる地域の人々が講師として参加できる学校教育を進める必要がある
豊かな環境づくり木曾地域会議会員との意見交換会 ＜環境部・木曾地域振興局＞	H29.5.30	会員	17	産業・雇用	・休耕田に水を張り、下流域への水の供給源として活用するなど、高齢化の中でもうまく行く農地利用が大切
				環境	・ここで暮らしてよかったと思える地域づくりに環境の視点を活用 ・使用する電気よりも創り出すエネルギーの方が多住宅づくり
信州6次産業化推進協議会総会 ＜農政部＞	H29.5.30	協議会委員	20	産業・雇用	・農業が儲かる産業となり、多くの若者が就労できる社会 ・多様な働き方が提供され、就労を通じた社会参加が可能になっていけば良い ・滞在交流型観光が各地に広まり、交流を契機とした農産物販売を進める
平成29年度農業農村整備事業担当者会議 ＜農政部＞	H29.5.30	市町村、土地改良区	25	産業・雇用	・多様な者の参加により用排水路や農道、ため池など農業施設が良好に維持管理され、地域の農業を支えていく ・農産物、自然、交通利便性など地域資源を活用する ・ワイン用ぶどうの栽培が拡大され、上田地域がワインの一大産地になれば良い
市町村・土地改良区 農業農村整備事業担当者会議＜農政部＞	H29.5.30	市町村、土地改良区	37	産業・雇用	・土地改良区のスムーズな運営環境づくり ・農業生産、農業施設維持管理活動への周辺の住民の協力と理解
飯田OIDE長姫高校との意見交換会 ＜環境部・南信州地域振興局＞	H29.5.30	生徒代表	22	地域づくり	・若者が住みたい、働きたいと思う地域の魅力づくり(子育て支援の充実、苦しい企業への支援、自給自足的な消費生活、農業の担い手育成・誘致など)
				環境	・森林をはじめとする豊かな自然にあふれた長野県(水力発電、その他自然エネルギー活用) ・今取り組んでいる各種活動の継続・拡大による幅広い環境保全意識の共有
長野市農業青年協議会研修会 ＜長野地域振興局＞	H29.5.30	会員、農業委員、農地流動化推進委員他	20	産業・雇用	・GAP認証や環境にやさしい農産物認証制度等の取組がさらに進み、食の安全に配慮した農産物生産が行われていけばいい
信濃美術館整備ミニ・フォーラムin信州大学 「新美術館を想う、語り合う」 ＜県民文化部＞	H29.5.29	信州大学生など	87	地域づくり	・誰もが安心して街を歩いたり、自転車に乗ったりして、空気を感じていられる場所。当たり前の幸せにふと気づける笑顔のある姿 ・信州の多彩な特徴が活かされた、子どもから大人、高齢者まで笑っていられる姿 ・高齢化が進んでも若者から不満が漏れない社会づくり ・日常生活においてはそこまで人が溢れ返らず、小さなコミュニティだとしても、人と人、人と自然・動物等が近い距離感で共生できるのが理想 ・観光客だけでなく、そこに住む若者が信州を好きになり、信州でずっと暮らしていきたいと思える街 ・長野特有の田園風景や建築物を保全しつつ、車利用者以外にも優しいインフラストラクチャーの構築がなされる信州 ・松本、長野をアートの拠点に。音楽、スポーツがもっと盛り上がれば良い ・地域の伝統的な祭りや建築などが大切にされていること
				環境	・信州の良さは、やはり自然が豊かなことだと思うので、それを維持、またはより発展させた姿になると良い ・都会と自然が入り交じる場所 ・変化していく地球環境を踏まえた自然と人々の共生

会議名	日時	参加者	人数	分野※	主な意見
(信濃美術館整備ミニ・フォーラムin 信州大学「新美術館を想う、語り合 う」)				社会基盤	<ul style="list-style-type: none"> ・県内のアクセスをもっと便利に、車がなくても移動しやすく交通費をもっと安く ・地形や人口、面積等様々な要因があるとは思いますが、車を持っていないとどこに行くにも不便だと感じる人が多いので、公共交通機関をもっと充実すればいい ・長野県は交通が不便なことがあまりにも足かせになっていると思うので、人と文化の交流が生まれやすい信州になっていけば良い
				教育	<ul style="list-style-type: none"> ・文化等に興味を持てるような心にゆとりを持てる生活を送ることのできる信州 ・子育てしやすい地域。学びを提供する場所が学校以外にも多くあれば良い
				子育て	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもが貧困や虐待に苦しまなくて良い社会。歪んだ自己認識を持たず、健やかに育っていく社会
千曲市地域おこし協力隊との意見 交換会<長野地域振興局>	H29.5.29	協力隊	4	地域づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・イベント情報を一元化するなど継続的に県に来てもらえる仕組みづくり ・健康長寿を売り出すことによりヘルシー志向の人に移住してもらう
漁業協同組合(漁業権者)との意 見交換 <農政部>	H29.5.27	組合役員、総代	66	安全	<ul style="list-style-type: none"> ・油類流出などの水質汚濁事故の発生防止と発生時の迅速で充実した県の危機管理体制
				社会基盤	<ul style="list-style-type: none"> ・人が住み、川へ入り、釣りはもとより、河川の清掃や火災時の取水ができる自然に優しい思いやりのある河川環境づくり ・カワウやサギなどの野生有害鳥獣による魚の被害がない水辺環境(現状:魚の被害が甚大)
長野県農村生活マイスター協会上 伊那支部役員会<農政部>	H29.5.25	役員	6	地域づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・いざという時に助け合う地域、人間関係が大切にされる地域づくり ・他の地域から来る住民を温かく迎え入れる地域、そこに住みたいと思うような地域づくり
JAみなみ信州との意見交換 <南信州地域振興局>	H29.5.25	営農部長、関係課 長	8	産業・雇用	<ul style="list-style-type: none"> ・繁忙期の助っ人労働者として、子育て中の主婦層の短時間作業等の仕組みづくり ・大産地の形成ではなく、複数品目のリレー生産で市場との信頼を確保していく ・「若手中心の大規模化」と「定年帰農者の家族経営」により、全体の生産量を維持 ・将来中京圏は大阪の人口を上回るという予測があり、中京とのパイプづくりに注力したい
大北地区税務関係団体連絡 協議会 <北アルプス地域振興局>	H29.5.25	団体の代表、税務 署職員	10	産業・雇用	<ul style="list-style-type: none"> ・限られた人的資源、予算を効率的・効果的に重点分野に注力するためには、一方でICTの活用などにより事務・事業の効率化を図ることが重要。高齢者福祉など住民サービスへの情報インフラ活用など、積極的に先進的な技術を取り込み長期的な効率性を図る。
				地域づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の魅力を最大限に引き出すためには、限られた資源をどこに配分するか統一的な方針を策定し、優先的な事項に傾注する必要がある ・新しいことに挑戦する若者層が育つ一方、地域の魅力と伝統を担いながら人材の育成や情報発信を担う熟年・高齢者層とが共存し、各年齢層が地域の発展に貢献し生きがいを持って暮らせるような地域になってほしい
次期総合5か年計画「長野地域編」 若者ワークショップ <長野地域振興局>	H29.5.25	若手職員、市町村 交流職員	10	地域づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・結婚出産子育ての切れ目のない支援や、医療費の無料化、保育士確保、外国籍の子どもへの学校支援により、若者が沢山いる社会になれば良い
畜産関係団体等との意見交換 <農政部>	H29.5.24	畜産団体、市町村 職員等	12	産業・雇用	<ul style="list-style-type: none"> ・農家は生産物の安全性や質を高めていく必要がある ・酪農経営は高齢化、施設老朽化が課題、特に環境問題(臭気対策)
(一財)長野県果樹研究会青年部 役員会 <農政部>	H29.5.24	役員	10	産業・雇用	<ul style="list-style-type: none"> ・遊休荒廃地がなく、地域全体で農地を適正に管理する ・中核となる大規模農家と、中小農家が併存し生産を支える ・繁忙期での労働力確保に困らない

会議名	日時	参加者	人数	分野※	主な意見
管内市町村建設・建築担当課長 会議 ＜北アルプス地域振興局＞	H29.5.24	担当課長	15	地域づくり	・コミュニティーバス等の通行支援や緊急医療・災害時の交通に対応できる道路整備がされ、様々な観点から高齢者に優しく住みやすい地域である必要がある
長野市農業委員会東部地区 調査会 ＜長野地域振興局＞	H29.5.24	農業委員、農地流動化協力員他	20	産業・雇用	・コメづくりは、よりグローバルな取組が求められるので、農産物輸出の取組支援を進める
長野県農業経営者協会上伊那支部役員会＜農政部＞	H29.5.18	支部役員	9	産業・雇用	・農業者が地域や農業に誇りを持ち、儲かる農業の実現
				地域づくり	・それぞれの個性にあった生き方ができる、様々な地域や環境があって良い
飯綱町商工会通常総会 ＜長野地域振興局＞	H29.5.19	中小企業経営者等	60	地域づくり	・農村部の普段の生活をYoutubeなどで世界に発信してみるなどして、流入人口が流出人口を越える状態をつくる必要がある
LP協会長野支部総会 ＜長野地域振興局＞	H29.5.18	中小企業経営者等	70	産業・雇用	・軽井沢アウトレットのような大規模商業施設を誘致
自主防災アドバイザーとの意見 交換 ＜北アルプス地域振興局＞	H29.5.16	自主防災アドバイザー	3	産業・雇用	・銀座NAGANOのお客さんがリピーターとなって原産地を訪れるケースが多い。東京以外でもそのような場や機会を設けて欲しい
				安全	・消防団員の確保が年々難しくなっているため、消防団のマイナスイメージの改善や、加入したことでのメリットを作るなど対策が必要 ・独居老人の把握が必要。消防団で取り組んだが、個人情報の取り扱いが難しく断念した
信州豊かな環境づくり県民会議との 意見交換＜環境部＞	H29.5.15	会員	26	環境	・豊かな環境が保全され、農林業がきちんと営まれる県づくり ・登山道や不足する避難小屋、山小屋トイレなどの整備により、世界水準の山岳観光地づくり
自然エネルギー長野北信地域協 議会 ＜環境部・長野地域振興局・北信 地域振興局＞	H29.5.13	会員	18	環境	・蓄電池やPHV自動車が再生可能エネルギー設備と併設され、家庭においては災害時の非常用電源として活用されたり、売電量の増加や購入量の軽減に役立てられている社会の実現 ・県内の主要河川の流量データ等が一般に公開され、小水力発電事業を行おうとする事業者がそれらに容易にアクセスし、スピーディーな事業展開が可能になれば良い ・自然エネルギーの普及拡大に取り組むNPO等の団体が、必要な支援(人、金)を得て全国に先駆けた取組を展開出来れば良い
税理士会月例定例会 ＜北アルプス地域振興局＞	H29.5.11	管内税理士	20	産業・雇用	・若者が地域に戻り働くためには企業誘致が必要。「松本・糸魚川連絡道路」の早期整備により、富山県などの日本海側からの企業誘致も想定したビジョンが必要 ・個々の市町村ではなく地域全体を「北アルプス」ブランドとして国内・海外にPRすることが重要 ・創業の相談窓口を行政で一本化してもらえれば、税理士としても協力できると思う ・松川村は農業の後継ぎが戻ってきている。農業法人化など、その土地ごとの資源の活用が大切
農業経営者の会総会 ＜長野地域振興局＞	H29.5.11	農業者、千曲市、JA	15	産業・雇用	・若い世代や女性など多様な担い手で農業生産を行う
地球温暖化対策・自然エネルギー 研究会 ＜環境部＞	H29.5.10	市町村担当者、地球温暖化防止活動推進員等	65	産業・雇用	・農業における高床式砂栽培など新しいものを取り入れ、若者に夢や希望を与える取組の実施
				地域づくり	・田舎らしさや景観に憧れて移住してくる地域(太陽光発電が景観面で問題)
				環境	・CO2削減の目標や達成状況について、全国、県、市町村、一人当たりで総括するなど、県民への分かりやすい周知が必要
中小企業団体中央会長野支部総 会 ＜長野地域振興局＞	H29.5.10	会員	100	産業・雇用	・農地が豊富で、街全体が緑あふれるリゾートになればいい ・外国人観光客の多いホテルの整備や交通網整備、複合型リゾートの誘致によりインバウンドを増やす

会議名	日時	参加者	人数	分野※	主な意見
畜産農家巡回に合わせ意見交換 ＜農政部＞	H29.5.9	酪農家	3	産業・雇用	<ul style="list-style-type: none"> ・大規模畜産農家が増えれば良い ・もっと簡単に農地が手に入るようになれば良い ・農畜連携が一層進めば良い
信州サーモン振興協議会役員会 ＜農政部＞	H29.5.8	信州サーモン生産者、養殖漁協職員	7	産業・雇用	<ul style="list-style-type: none"> ・ますます魚を調理できる調理人が少なくなり、生産のみでなく、加工製品にも注力が必要である。信州サーモンの県内の売り上げが伸びないのは観光客の減少が一因ではないか
大北園芸振興協議会委員会 ＜農政部＞	H29.5.2	市町村農政担当課長等	15	産業・雇用	<ul style="list-style-type: none"> ・北アルプスに映える水田の風景の景観維持ができないと当地域は農村として生き残ることは難しい ・農振農用地の除外等の事務処理の簡素化及び期間の短縮に向けた取組が進む ・確実に所得の確保ができる営農設計を提案し、若い担い手を育成できるための支援策が必要
市町村農政担当課長・市農業委員会事務局・JA営農担当部長会議 ＜農政部＞	H29.4.28	市町村農政担当課長等	26	産業・雇用	<ul style="list-style-type: none"> ・農産物の輸出により儲かる農家や、技量がある里親農家が増えれば良い ・水稻農家が補助金がなくなっても儲かり、農業が続けられる
大北消防協会役員との意見交換 ＜北アルプス地域振興局＞	H29.4.28	消防団関係者	20	産業・雇用	<ul style="list-style-type: none"> ・観光地の利点をうまく活用、雇用を創出することで若者の流出を防ぐ
				地域づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・真面目に活動、生活している人が損をしない体制づくり
				安全	<ul style="list-style-type: none"> ・一人暮らしの高齢者が増加する社会を見越した防災組織の構築 ・消防団員の確保及び常備消防力の強化や機能別消防制度の充実
				社会基盤	<ul style="list-style-type: none"> ・観光資源を活かしつつ100年後に世界遺産になるような街並みづくり
				健康・福祉	<ul style="list-style-type: none"> ・健康寿命が延伸し、医療費が削減され、保険料負担の軽減された地域
市町村農政担当課長・市農業委員会事務局・JA営農担当部長会議 ＜農政部＞	H29.4.27	市町村農政担当課長等	20	産業・雇用	<ul style="list-style-type: none"> ・他産業(会社員)と同等の所得のある農業、他産業(会社員)並みに休日を取られる農業の実現 ・農家や農業参入企業の柔軟な発想や経営を妨げない農村地域の出現 ・農業が産業として成り立てばいい
				地域づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・誰もが住みたいと思う魅力ある環境と住みやすい街がある長野県 ・長野県独自の景観を残しつつ、若者に魅力ある働く場が多い街づくり
池田土地改良区との意見交換 ＜農政部＞	H29.4.27	改良区役員	2	産業・雇用	<ul style="list-style-type: none"> ・改良区の組合員は、大半が農地所有者である。大半を貸し出してもわずかは耕作している。今後は不在地主も増えるだろうし、改良区運営に興味がない人が増えているため将来の運営が不安
市町村農政担当課長会議 ＜農政部＞	H29.4.26	市町村農政担当課長等	19	産業・雇用	<ul style="list-style-type: none"> ・多種多様な作物に対応できる気候特性を活かした生産振興の検討が必要 ・「果樹をやるなら南信州」など特化した人材誘致が重要 ・リニア開通等を見据えた「観光農業」の展開
21上小農業活性化協議会花き部会 ＜農政部＞	H29.4.26	会員	9	産業・雇用	<ul style="list-style-type: none"> ・花卉栽培の専業農家を増加させる ・獣害で耕作放棄地になっている農地を、地域の人が協力して栽培するようになってほしい
松本市新しい農業経営者協議会第2回全体会 ＜農政部＞	H29.4.25	会員	19	産業・雇用	<ul style="list-style-type: none"> ・農業が県民の財産として捉えられるようになってほしい ・小回りのきくセミプロ農家(市民や兼業農家)により直売所等への出荷が活発に行われ、地産地消が進む ・耕作放棄地で荒れたところがなく、いつでも農業ができるような景観が保たれる
長野市農業委員会西部地区調査会 ＜長野地域振興局＞	H29.4.25	農業委員、農地流動化協力員他	16	産業・雇用	<ul style="list-style-type: none"> ・猟友会組織との連携やジビエに関するPR活動など、ジビエの戦略的な活用による中山間地の活性化

会議名	日時	参加者	人数	分野※	主な意見
21上小農業活性化協議会果樹部会 ＜農政部＞	H29.4.21	会員	15	産業・雇用	<ul style="list-style-type: none"> ・消費者の農業に対する理解(農薬の安全性と必要性等)が深まれば良い ・地域の人が、地元産農産物を食べられることのありがたさを理解する ・葉摘みしなくても色が付く品種、色が悪くても味がよい品種等の開発が進む
長野県資源循環保全協会との意見交換 ＜環境部＞	H29.4.20	協会役員、事務局	4	産業・雇用	・松本空港を活用し、外国からの観光客を迎える努力が必要
				環境	・水大気環境の保全を県民全体で意識するような取組が必要
				子育て	・仕事、住居、医療、教育など、トータルで子育てしやすい施策の検討が必要
真田町農業後継者グループ青葉会総会＜農政部＞	H29.4.20	会員	13	産業・雇用	<ul style="list-style-type: none"> ・野菜団地、りんご団地、ぶどう団地、花き団地など、作物による団地化を進める ・ドリフト(農薬飛散)問題が起きないために農薬の開発や、団地化を進める
農業士協会安曇野支部会議 ＜農政部＞	H29.4.19	会員	7	産業・雇用	・耕作面積が大きいので、機械化や省力化がさらに進むなど余裕のある農家経済生活の実現
				地域づくり	・田園風景、山、中山間地の農業を維持していきたい
21上小農業活性化協議会野菜部会＜農政部＞	H29.4.19	会員	6	産業・雇用	<ul style="list-style-type: none"> ・H30以降の米生産が不安なので、米から園芸品目への転換が必要 ・地域ごとに重要品目作って関係機関が協力して全力で推進する
農業士協会安曇野支部会議 ＜農政部＞	H29.4.14	会員	12	産業・雇用	<ul style="list-style-type: none"> ・担い手の確保に向けた取組の強化 ・交通の不便さを活かし、旅感覚で長期に訪れてもらえるような取組の強化
上田農業青年会議定期総会 ＜農政部＞	H29.4.13	農業青年	9	産業・雇用	<ul style="list-style-type: none"> ・農業法人等が規模拡大し、従業員を大量に雇用し農業後継者として育て、農地付きでのれん分けする ・農業技術と資金を確保して就農できるよう支援が必要
下條村レディースファーム会議 ＜農政部＞	H29.4.13	会員	41	産業・雇用	<ul style="list-style-type: none"> ・中山間地では兼業でもいいので農地・農業を守る後継者が必要 ・農薬散布が少なくすむ農産物の育成
安曇野.Come定例会 ＜農政部＞	H29.4.11	会員、デザイナー、農機具メーカーなど	6	産業・雇用	・個々でも活躍でき、グループでさらに活躍できるような面的な繋がりへ
				地域づくり	・住民に郷土愛が広がれば良い
農村生活マイスター支部役員会 下伊那国際農友会総会など ＜農政部＞	H29.4.5他	農村生活マイスター、会員	22	産業・雇用	<ul style="list-style-type: none"> ・海外労働者やワーキングホリデーの受入に対応できる環境づくりが必要 ・中山間地は高齢化が進み、人口も減少の一途ではあるが、残された住民が生きがいを持って暮らしていくことが農村や農地を守ることに繋がる。そのためには、高齢者や女性でも扱える作物や山菜などの指導をもっとしてほしい
				地域づくり	・10年後にはリニアが開通し、下伊那地域の目玉となる。農村の風景を守ることが、観光農業のさらなる発展につながる
これからの長野県教育を考える有識者懇談会(第3回) ＜教育委員会＞	H29.3.29	懇談会委員	16	教育	<ul style="list-style-type: none"> ・教育は一生涯のものなので、学校教育に留まらず、社会教育や人間の一生涯を見据えた教育体系にする必要があるのではないか ・今後、子どもたちの65%が今は存在しない仕事に就く目まぐるしい時代。働く世代も社会に適応していく必要がある ・多様な他者とつながり、相互に学ぶやりとりの中で自分の価値を見出したり、問い続けられる人材の育成が必要 ・長野県には自然へのアクセシビリティの良さがある。自然からの学びは世界に通じる様々な教育にもつながる ・長野県の学力問題の1つに教える側の指導力、教員の資質の問題がある。現場では新しい教育について考える時間的、精神的ゆとりがない ・信州の健康長寿の理由の1つは野菜摂取量が多いこと。食育の観点から、高齢者世代の生活から学べるものもあるのではないか

会議名	日時	参加者	人数	分野※	主な意見
川田土地改良区総代会 ＜農政部・長野地域振興局＞	H29.3.15	土地改良区役員、 総代	25	産業・雇用	<ul style="list-style-type: none"> ・儲かる農業ができる環境整備（圃場整備、農産物の団地化などを農家負担なしで） ・土地をまとめ水稲組合として若い人たちが農業に従事しやすくできないか ・地域・農地を守る為に担い手の参入・確保が必要